

題材の目標

- (1) 形や色彩の構成、布の質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴や染色の技法などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追究して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表すことができる。
- (2) 構成や装飾を基に、使う場面や飾る場所、イメージなどから主題を生み出し、形や色彩、染色の技法の効果から美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさを総合的に考え、表現する構想を練ることができる。身に着けたり空間を飾ったりする物の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に形や色彩、染色の技法の効果から美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさを総合的に考え構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追究して見通しをもって創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

【準備等】画用紙、布、染料、絵の具、参考資料、ワークシート、タブレット端末、筆記用具、絵の具

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 染め物について理解を深める。</p> <p>★染料の魅力とは、何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 染め方や染料の違いによる染め物の文化について知ることを通して、染め物の魅力を考える。 《染め方の種類》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の色で染める（木の葉、草など） ・ 化学染料で染める 《染め物の文化》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 紅型染め（沖縄の衣服） ・ アットゥシ（アイヌの衣服） ○ 身に着けたり空間を飾ったりするなど身に着ける人や場面を考えて発想を膨らませる。 <p>2 主題を基に構想を練る。</p> <p>★使うことを想像して、主題を決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しんだり、心地よさを感じたりする使い道や使う人たちの気持ちから発想を広げ、主題を生み出す。 ○ 機能と造形的な美しさとの調和を総合的に考えて構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2次元コードを読み取り、染め物の魅力に触れる。 ・ 布や染料の性質や効果、イメージなどを生かし、目的と美しさなどとの調和を総合的に考えさせる。 <p>・ 教科書 p. 58～59 にある、「有松・鳴海絞り」「加賀友禅」「シアポ」「アディレ・エレコ」など、国内外の染め物を紹介し、興味関心を広げさせる。</p> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい主体的に形や色彩、染色の技法の効果の美しさなどとの調和を総合的に考え構想を練り、意図に応じて自分の表現方法を追究して創造的に表し見通しをもって表す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような場面でどのように使用したいのかなどさまざまな場面を想像することで深く検討させる。 ・ 主題を基に、表現の意図や思い、美しさを効果的に表しているかを総合的に考えさせる。 <p>【評】形や色彩の構成、布の質感、染色の技法を基に、全体のイメージや美しさなどで捉えることを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

<p>3 主題を基に制作する。</p> <p>★素材や染料の特性を生かしながら制作しよう。</p> <p>○布の特性や感情にもたらす効果、用具の機能面としての特性を生かしながら創造的に表す。</p> <p>○生地どんな模様をつけたいか考え、ねらいとする表現効果に応じて手順などを考えて表す。</p>	<p>・染色の表現方法や布の質感など材料の生かし方を学び、新しいことに挑戦して創造的に表すことを大切にさせる。</p> <p>【評】使う場面や飾る場所などを基に、イメージなどから主題を生み出し、形や色彩、染色の技法の効果の美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・どのような形が生まれるかは正確には予想ができないが、行為を意図的に行わせて、ねらいとする表現効果に応じて手順などを考えさせる。</p> <p>【評】材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を追究して創造的に表し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>4 鑑賞会を行う。</p> <p>★それぞれの作品の美しさを感じ取ろう。</p> <p>○作品を比較するなどして、機能と造形的な美しさとの調和を総合的に読み取り、見方や感じ方を深める。</p> <p>○布の性質や質感、形や色彩などの組合せによる構成の美しさなどについて理解する。</p>	<p>・受け手や使い手の美意識や美的選択能力などつくり手に対する積極的な働きかけが含まれていることを伝えながら考えさせる。</p> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・捉えたイメージなどをこれからの表現の構想に生かせるよう、目的と美しさなどとの調和を総合的に考えさせる。</p> <p>【評】身に着けたり空間を飾ったりする物の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本題材は、いつ、どこで、どのように使うかを想像して色や模様を考え、染めの味わいを楽しみながら表現を工夫する。材料には、地肌の特徴や質感による人間の感覚や感情に強く働きかける特性がある。材料の性質や質感を捉えさせるためには、実際に材料を手にとらせ、その感触などを十分に確かめさせるとともに材料の可変性などに気付かせることが大切である。また、布などがもつ温かみなどの感情にもたらす効果には、一人一人の感じ方が異なるものと、多くの人が共通に感じるものとがあることに留意することも必要である。